

目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会には加入しているが、施設で計画するイベントなどを施設側から地域に発信する事がなかった為、近所の方が立ち寄る機会がなかった。	地域の方にグループホームを知って頂き、行事を通して交流ができる。又、近所に暮らす方々が気軽に立ち寄れる施設になる。	グループホーム通信の地域版を作成し、回覧板で回す。グループホーム通信に行事予定など、グループホームでの取り組みや様子を掲載していく。	1ヶ月
2	6	『利用者の安全のため』にと玄関センサーを使用してきたが、利用者が落ち着いている時間や職員の人数が確保できる時間にも、センサーに頼っておりスイッチを切る時間を作る検討がなされていなかった。	センサーに頼らず、職員が目配りや気配りで利用者の安全を守る事が出来る。	職員が一人で見守りをしなければならない時間帯以外はセンサーを切る。職員同士が、連携し利用者の所在確認・安全確認を行っていく。	1ヶ月
3	36	業務日誌や利用者のケア記録を記入しながらフロアの見守りを行っていた。	利用者のプライバシー保護や、利用者本位のケアに関する職員の意識が高まり、利用者気持ち良く生活して頂ける場をつくる。	業務日誌、ケア記録は事務室で記入する。利用者の午睡時等、フロアに利用者がいない時のみ全体の見守りをしながらフロアでの記入を可とした。職員同士が声を掛け合い、利用者の安全第一で行う。ケア記録の様式を見直し、新たな様式を活用している。	1ヶ月
4	33	終末期ケアには対応しない方針であったが、今後は利用者のADLの低下や重度化も含め出来る限り、ニーズに応えられるよう検討していく必要がある。	職員の知識、介護技術が向上し重度化や終末期のケアに前向きに取り組む事が出来る。	月1回、定期的に施設内の勉強会を開催し、職員の意識向上や介護技術の向上を図る。又、利用者の身体状態・精神状態の低下や医療依存度が高くなった場合に、当施設でどこまで対応できるのかを家族も含め検討していく。終末期の対応に関する文書の作成と家族への説明を実施して行く。	6ヶ月
5	34	利用者の急変や事故発生に備え、全ての職員は一時救命救急法や様々な状態を想定した初期対応・手当を学ぶ必要がある。	マニュアルを整備し、急変や事故発生時に全ての職員が対応できるよう定期的に訓練をし、実践力を身に付ける。	マニュアルを整備し、定期的に訓練を計画・実施して全ての職員が実践力を身に付ける。又、運営推進会議でも6月に会議の内容として避難訓練の実施を予定している。	3ヶ月
6	35	施設周辺に商店やホテルが多い商業地域であるがために、地域との協力体制の構築に至っていない。近隣住民や、地域との協力体制を整備していく必要がある。	昼夜問わず災害時に、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけ、地域との協力体制を築く。	マニュアルを整備し、毎月の訓練を計画・実施する。又、消防署や地域との協力体制が築けるような取組を検討していく。	6ヶ月